



ウズラの飼養衛生管理マニュアルを改訂

開発の背景・ニーズ

本県には242万羽（2020年2月）のウズラが飼養され、卵の生産量は全国の50%以上を占める全国一の生産県となっています。当場では、ウズラの生産基盤の安定化を図るため、研究成果を体系的にまとめた「ウズラの飼養衛生管理マニュアル」を2009年に発行しました。

今回、生産現場のニーズに対応するため、ヒナの安定生産にとって不可欠なふ卵衛生管理に関する新たな研究成果等を盛り込み、内容の一層の充実を図りました。

成果の内容

改訂の主なポイント

1. 新たな研究成果の追加（研究成果掲載数：初版11→改訂版20へ拡大）

- (1) 羽色で雌雄鑑別ができる新系統の開発（ブラウン系統及び野生色系統）
- (2) ウズラ種卵の適正な保管条件
- (3) 種卵消毒（逆性石鹼製剤浸漬法）がふ化率に及ぼす影響
- (4) 種卵消毒（グルタルアルデヒド製剤等浸漬法）がふ化率に及ぼす影響
- (5) 育成期及び産卵期における飼料米の適正な混合割合と加工形態（飼料米利用技術）
- (6) 制限給餌によるウズラの産卵調整技術（災害時の産卵休止技術）
- (7) 個体別茶玉（異常卵）発生の経時的推移（異常卵発生傾向の解明）
- (8) ニューカッスル病(ND.家畜伝染病)ワクチンの効果的な接種法（接種量と接種日齢）
- (9) サルモネラワクチンのウズラへの応用

2. 改正飼養衛生管理基準を掲載

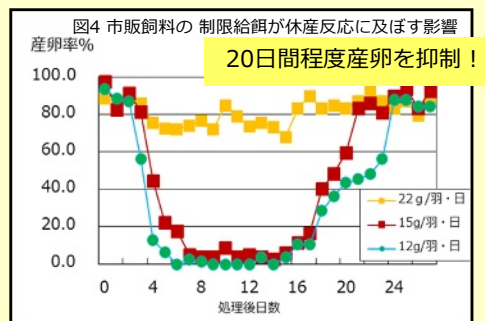
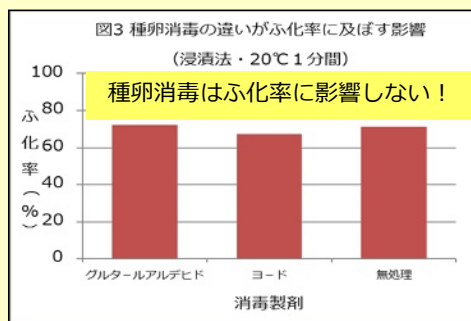
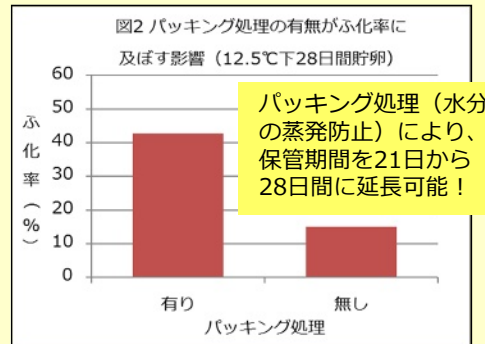
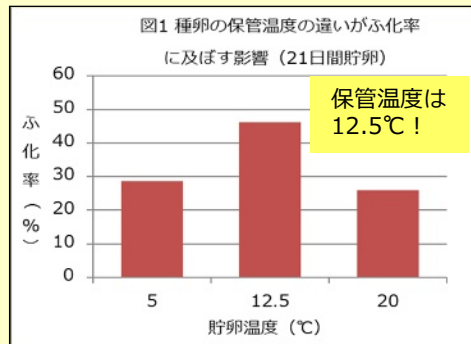
3. 最新の研究情報の紹介を新設

4. 参考資料の充実

系統ウズラの産卵性能及びウズラ肉の栄養成分の追加等



改訂版（表紙）



愛知県農業への貢献

これまで生産者の経験によるところが大きかったふ卵衛生管理等について数値として示すことにより、生産現場におけるヒナの効率的かつ安定生産に大きく貢献します。

本県のみならず全国の生産者へ配布し、研究成果の普及拡大と共に我が国のウズラ産業の発展と安定に寄与します。